

日系ブラジル人の表象 ——動画共有プラットフォームYouTube内の動画での表象に着目して——

一般社団法人グローバル多文化社会研究所 研究員
東京大学大学院 教育学研究科 博士課程
上原菜緒子

1. 問題設定

令和2年の国勢調査(総務省 2022)によると、日本人人口は2015年と比較して178万3千人減少した一方で、外国人人口は83万5千人へと増加しているとともに、総人口において外国人が占める割合も、1.5%から、2.2%に増加している。本稿が対象とする日系ブラジル人は、日本の外国人人口において、2005年の13.9%から、2020年は7.5%と若干の減少傾向がみられるものの、国籍別では3番目に多いグループとなっている。日系ブラジル人は、1990年の入管法の改正に伴い、身分をもとにした資格、「定住者」の在留資格を認められる形で受け入れが行われた。そして、この受け入れは、実質的には移民政策として機能し、雇用の調整弁となってきた(梶田ほか 2009)と指摘されている。

また、日系ブラジル人は、他の外国籍者と比較すると、地方に集住しており、一次産業や二次産業に従事している傾向がみられており、こういった集住傾向や・職業的な凝集性は、日本人の排外意識との関連で研究がなされてきた。そして、排外意識の背後にメディアによる表象の影響も指摘されている。群馬県大泉市で量的調査と住民に対するインタビュー調査を行った濱田(2013)は、排外意識の内実として、ブラジル人への排外意識と「治安悪化への不安」の相関が最も高く、その背後要因として、メディアや噂によって「治安の悪化への不安」が社会的な事実として構築されていると指摘している。このように日系ブラジル人は他の外国籍者と比較すると、制度上は「日系」という日本とのつながりがあるという同質性が強調されて受け入れがなされたものの、ローカルな文脈では「外国人」として日本人の住民との問題が顕在化したエスニックグループであるといえる。

では、こういった排外意識に対して、教育にはどのような役割が期待されるのだろうか。これまでの日本の排外意識研究においては、地域における人権教育や同和教育の連続性の中で教育の効果が指摘されてきた。例えば、在日韓国人・朝鮮人の人口が多い地域においては、排外意識が弱いこと(額賀2000)が指摘されており、その背景として関西地域における同和教育・人権教育との関連が指摘されている(濱田2013)。このように、マイノリティといわれる人々の歴史を授業内のカリキュラムに導入することの重要性は、欧米では多文化教育・あるいは批判的教育学の分野で指摘されている。日本でも研究者によって、日系移民の歴史を辿る教材や授業実践が試みられており、日系移民の歴史の教材開発や授業実践から、在日外国人の歴史を含めた多文化教育へと接続しようとする試みもみられている(森茂・中山 2008)。また、教科書における日系ブラジル人の記述については、2021年度の中学校の地理の教科書すべてに日系ブラジル人の記述が導入されることになったが、この変化の背景には、社会科の教員を中心とした教材開発の試みや教科書会社への要請などの運動があった(ブラジル日報 2022)。

また、近年では、文部科学省によって「日本と中南米をつなぐ日系人」というリーフレットが補助教材として公開されており、日系人の移住の歴史的経緯や現在日本やブラジルで活躍する日系人などが紹介されている。公民権運動後の米国において、エスニック・マイノリティと言われる人々の歴史が教科書に反映され、連邦政府による教材開発のための支援がなされた(坪谷 2020)ことを踏まえると、日系ブラジル人に関する教科書の記述や教材開発を取り巻く上記のような変化は、日本の多文化社会への萌芽といえる。

そこで、本稿は地理の教科書への日系ブラジル人の記述の導入により、今後補助教材として利用が想定される動画、特にアクセスが容易なyoutube上ではどのような動画を分析対象とした。そして、動画内で日系ブラジル人がいかに表象されているのか、その傾向について明らかにすることを目指した。近年では、授業におけるICTの活用が重要視されており、特に社会科においては、教員が見せたい動画の教科(複数回答)の中で社会科をあげた教師は46.8%であった(島田・中原2023)。さらに、若い世代においてはyoutubeをはじめとした動画視聴が定着しており、子どものICT利用調査(2023)によると、小学生・中学生・高校生のどの年齢においても、インターネット

の使用用途として動画をあげた場合が最も多い。このことから、インターネット上からアクセス可能な動画は有用な教材・情報源となりうる。以上のような経緯から、本研究は、youtube上に上がっている動画を分析対象として、日系ブラジル人の表象の特徴について論じていく。

3. 方法論

以上の背景から、本項では日系ブラジル人と検索した際に検索結果として表示される、あるいは関連動画として表示されたものの中から、個人のチャンネルと思われるものを除外し、動画の一覧表を作成した。分析対象となった動画は、計94件あった。本項では、その動画の一覧表をExcelで作成し、分析を行った。まず、94件の動画を視聴した後に、その内容を要約し、その内容を「①移住の歴史」「②就労」「③教育」「④エスニックコミュニティ」「⑤アイデンティティ」の5つのコードに分類した。そして、後者3つコードについては、サブコードとして、「日本での就労」「②-2 ブラジルでの就労」「③-1 日本での教育」「③-2 ブラジルでの教育」「④-1 日本でのエスニックコミュニティ」「⑤-2 ブラジルでのエスニックコミュニティ」を付与していった。出てきたコードとそのコード数は、表1のとおりである。

使用したコードとコード数		
メインコード	サブコード1	サブコード2
①移住の歴史 (43件)		
②就労 (32件)	②-1 日本での就労 (18件)	
	②-2 ブラジルでの就労 (14件)	
③教育 (28件)	③-1 日本での教育 (17件)	ブラジル人学校 (6件) ※うち3件はコロナ渦の経済難
	③-2 ブラジルでの教育 (11件)	
④エスニックコミュニティ (14件)	④-1 日本でのエスニックコミュニティ (5件)	
	④-2 ブラジルのエスニックコミュニティ (9件)	
⑤アイデンティティ (10件)		

表1 分析に使用した動画の内容を示すコードとコード数

4. 分析の結果

4.1 動画の作成時期と再生回数

まず、動画数とその公開時期の傾向について述べる。表1は「日系ブラジル人」を表象した動画の公開年と公開された動画数を示したものである。分析対象とした全94件の動画のうち、動画がアップロードされた時期として多かったのが、2022年(12件の動画)と、翌年2023年(10件)であった。



表2 分析対象の動画の作成年と動画数

次に、再生回数についてみていくと、再生回数には動画間での差が大きくみられている。全94件の動画の平均再生数が約1万326回であった一方で、動画の再生回数の中央値は450回であった。そして、最も再生回数が少なかった動画は、27回の再生回数であった。最後に、再生回数が多い動画に着目すると、最も再生回数が多かったのは、2020年10月23日にABCニュースによって「もう限界！コロナで親が授業料払えず…ブラジル人学校が経営危機」(39万256回再生)というタイトルで公開された動画であった。続いて2番目に再生回数が多かったのが、2020年10月14日に、MBSニュースによってアップロードされた「【特集】滋賀の『ブラジル人学校』」であった。上記2つの再生回数の多かった動画の特徴として、1) 地方メディアによって制作、公開された動画であることと、2) コロナ渦の影響による日系ブラジル人学校の経済難という側面での表象が指摘できる。

表3 動画の再生回数

	再生回数
最大値	390,256回
最小値	27回
平均値	10,326回 (*小数点 第1位代入)
中央値	450回

4.2 動画内で言及される特定のテーマと都道府県に関して

本稿では、分析対象となった動画94件を視聴し、その内容を表すコードと、言及される都道府県名にコードを付け、分析を行った結果について述べていく。まず、内容を表すコードとして1) 移住の歴史2) 就労3) 教育4) エスニックコミュニティ5) アイデンティティの5つが挙げられた。まず、最も多かったのが「移住の歴史」のコードに該当する内容で、43件に当たる動画がこれに分類された。このことから、日系ブラジル人を表象した動画では、日本からブラジル・そしてブラジルから日本への移動の歴史的背景が主要なテーマとなっていると言える。次に頻出したコードは、「就労」と「教育」であった。全94件の動画のうち、約3分の1にあたる32件の動画が「就労」に該当する内容で、続いて28件が「教育」に該当する内容であった。特に、上記の「就労」と「教育」に関する内容においては、動画を提供するメディアに応じて特徴的なストーリーがみられた。ここでは特に地方メディアでの特徴的な内容について具体的に論じていきたい。まず、日本の地方メディアで取り上げられる特徴的な内容として、日本で義務教育での経験を経て、弁護士や、いわゆる世代間媒介型(児島)といわれる職業(教師・学習塾の塾長)と言ったに従事する第二世代の日系ブラジル人のライフストーリーが取り上げられる傾向にあったことである。一方で、地方メディアにおいて、ブラジル人学校に言及した動画は、3件あり、そのうち2件はコロナ渦におけるブラジル人学校の経済難を取り上げたものであった。このように、日本の地方メディアでは、日本の義務教育や高等教育を経由して世代間媒介型の職業に就いた日系ブラジル人の第二世代に焦点が当たる一方で、日系ブラジル人学校においてはコロナ渦や経済的苦境といった内容で取り上げられる傾向がみられていた。

次に、分析対象とした動画94件のうち、特定の都道府県に言及されていた場合、その都道府県名のコードを付与していった結果について表3を参照して論じていく。表3をみると、言及された都道府県の多い順から、第1位が愛知県(15件)、第2位が群馬県(9件)、第3位が兵庫県(6件)、第4位が静岡県(5件)となっていた。これらの都道府県に特長的なのは、ブラジル人人口が多いと

言われる地域である。法務省(2023)の都道府県の外国人人口の国籍別統計を見ると、多い順に、第1位が愛知県(ブラジル人国籍者の約29%)、第2位が静岡県(約15%)、第3位が三重県(約7%)、第4位が群馬県(6%)に居住していた。このことから、動画内で言及された都道府県とブラジル国籍者の集住している都道府県には一部重なりがみられており、愛知県や群馬県に言及した動画が多いのは、ブラジル国籍人口が多い地域であることがあるといえる。一方で、三重県については、言及された動画が見当たらなかった。一方で兵庫県は、ブラジル国籍者人口が多いわけではないが、日本人をブラジルに送り出す役割を担った施設など歴史的な背景があるために、言及された動画が多くなった可能性が考えられる。

表4 特定の都道府県に言及した動画数

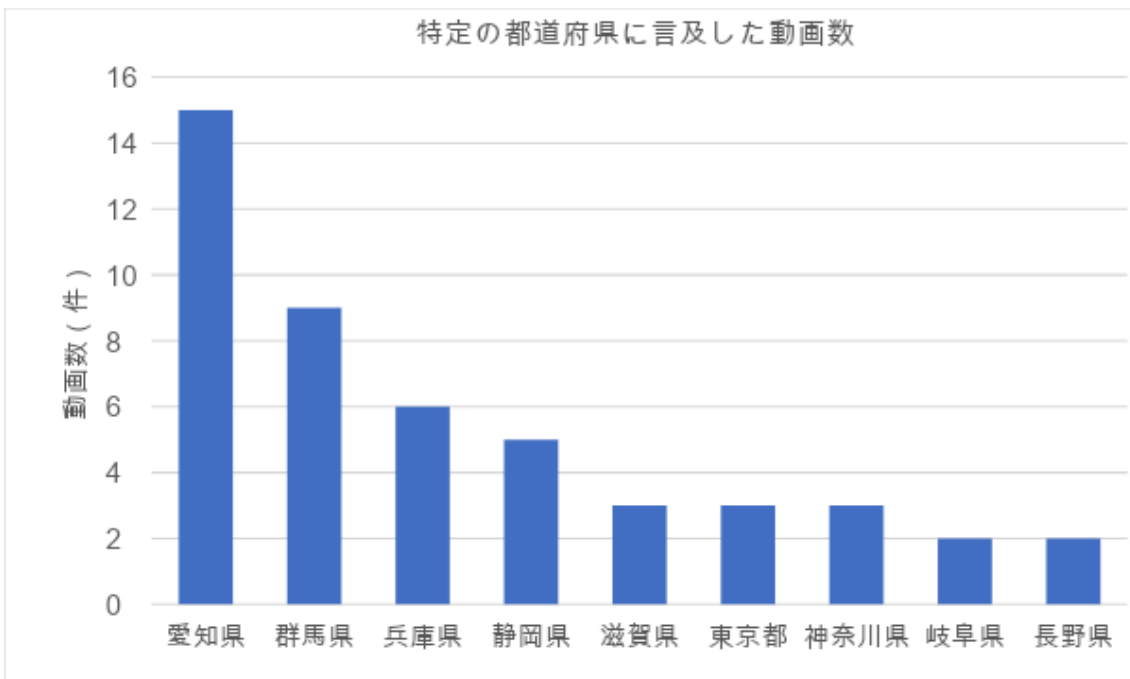


表5 都道府県別ブラジル国籍者数(都道府県別上位10位)

順位	都道府県名	ブラジル国籍者数	ブラジル国籍の居住率(%)
1	愛知県	61,006	28.97
2	静岡県	32,350	15.36
3	三重県	13,732	6.52
4	群馬県	13,500	6.41
5	岐阜県	12,125	5.76
6	滋賀県	9,741	4.63
7	神奈川県	9,217	4.38
8	埼玉県	7,350	3.49
9	茨城県	6,164	2.93
10	長野県	5,072	2.41

法務省(2023)の都道府県の外国人人口の国籍別統計より筆者作成

4.3 動画の提供団体に関して

動画を公開しているチャンネルを運営している団体は分類すると、(1)地方メディア(2)自治体行政や関連団体(3)JICA/一般社団法人(4)エスニックメディアという4つに主に分類することができる。

第1に、地方メディアがあげられる。主に日系ブラジル人が集住している地域の県内のメディアにおいて、日系ブラジル人が被写体としたテーマが取り上げられており、地域性が重要な要素となっていることが分かる。

第2に、自治体とその関連団体による動画がある。具体的には、神戸動画館(神戸市広報)、大泉町観光協会、HICE浜松国際交流協会が作成・公開していた。これらの地域の特徴として、日系ブラジル人移住者との歴史的な背景がある地域であることと、日系ブラジル人の集住地域であるといったことがあげられる。

第3に、一般社団法人である。具体的には、一般社団法人 INTEGRAや一般社団法人 多文化市民メディアDiVE.tvがあげられる。前者の一般社団法人INTEGRAは、愛知県岡崎市に事業所を構える団体で、貴団体のHPによると、母体となった会社は、国籍・年齢・性別を問わない求人で、ブラジル人スタッフを採用しており、中小企業でありながらも国際的な視野をもった会社を目指しているという。後者の一般社団法人多文化市民メディアDiVE.tvも愛知県名古屋市に事業所を置く団体で、団体ホームページによると、「日本に住む様々な人たちが「異文化」について理解を深め、お互いにコミュニケーションを図りやすくするためのインターネットメディアです」と紹介されている。これら2つの一般社団法人についても特徴的であるのは、愛知県という地域性がみられることである。

第4に、エスニックメディアとして、Discover Nikkei とAlternativa online があげられる。これらのメディアで特徴的なのは、言語が日本語だけではなく、ポルトガル語でも字幕や文字起こしの機能を使用することで、両言語での発信がなされていることである。

表6 動画の提供団体

提供団体カテゴリ	提供団体名	事業所の所在地
地方メディア(8)	TV愛知	愛知県・名古屋市(本社)
	MBS NEWS	大阪府・大阪市(本社)
	サンテレビ	兵庫県・神戸市(本社)
	tvk News Link	神奈川県・横浜市(本社)
	CBCドキュメンタリー	愛知県・名古屋市
	ABCテレビニュース	大阪府・大阪市(本社)
	東海テレビNEWS ONE	愛知県・名古屋市(本社)

	愛知のニュース	愛知県・名古屋市(本社)
自治体と関連団体(3)	神戸動画館(神戸市広報)	兵庫県・神戸市
	大泉町観光協会	群馬県・大泉市
	HICE浜松国際交流協会	静岡県・浜松市
一般社団法人(2)	多文化市民メディアDiV.tv	愛知県・名古屋市
	Project INTEGRA	愛知県・岡崎市
エスニックメディア(1)	Discover Nikkei	アメリカ・ロサンゼルス
	Alternativa Online	東京都・渋谷区
政府機関(1)	JICA	
その他	公式 池上彰と増田ユリヤのYouTube学園	

4.4 シリーズ化された動画を出している団体の詳細

本稿では、日系ブラジル人を被写体として、シリーズ化した動画を3本以上あげているチャンネルとして、下記5チャンネルとその運営団体があげられる。本項では、それぞれチャンネルを運営する団体と日系ブラジル人をテーマとした動画の内容について詳しく分析をしていく。

4.4.1. 多文化市民メディアDiV.tv

団体のHPによると、多文化市民メディアDiV.tvは、愛知県名古屋市で事業所を置く一般社団法人で、前述したように「日本人と外国人のコミュニケーションが促進されることを目的として、外国にルーツを持つ人たちが日本人と一緒に自国の文化を発信するインターネットの動画サイト」として、名古屋市を中心に市民のニュースを多文化の観点から発信していくことで、新しい価値観に出会う機会の提供を目的としている。同団体が運営するyoutubeチャンネルは、2015/06/22 に登録され、現在の登録者の数は4410人で、これまでに181本の動画が公開されている。日系ブラジル人以外の外国にルーツをもつ方たちに焦点を当てているが、その中でもyoutube上で、「日系ブラジル人」と検索した際に出てきた動画は、3件あった。具体的な動画タイトルと再生回数をみていくと、1つ目が「私たちはここにいる！日本育ちの日系ブラジル人青年によるアパレルブランド発信の挑戦JICAオンラインセミナー」(321回再生)で、2つ目が「大学に進学させたい！ブラジル人保護者向け説明会」(2921回再生)であり、最後に「ブラジル学校ってどんなところ？」は、1.1万回再生であった。この3件の動画の中では、ブラジル人学校をテーマとした動画の再生回数が1万回を超えており、日系ブラジル人を描いた動画の中では、視聴者の関心が高いことが分かる。また、後者2つの動画は愛知県内で撮影が行われている。同団体が事業所を設置している愛知県は、法務省(2023)によると、ブラジル人人口が最も多い都道府県であり、地域性がここにも反映されているといえる。

4.4.2 神戸市立 海外移住と文化の交流センター

同チャンネルでは、日系ブラジル人と検索して際にヒットした動画とそのシリーズが4件あった。本チャンネルは、2022年7月14日にチャンネルとして登録され、現在に至るまでに117人の登録者数で、計21本の動画が公開されている。youtube上のチャンネルの説明欄には、神戸市のHP(2022)によると、現・神戸市立海外移住と文化の交流センターはかつて、1928年に「移民収容所」として、移住先で必要な知識(言語・宗教・地理・風俗・農業)を提供したり、出国前の手続きや健康診断などを実施したりする施設として神戸港からブラジルへ移住する人を対象とした施設であったが、その後、1971年に送り出しの政策が終り、2009年に整備されて現在の施設名になり、40年の移住の歴史の継承や外国人支援や芸術交流などの場として使用されているという。そのため、本チャンネルでは、「【神戸から世界へ】はじまりの地で伝えるブラジル移住の歴史」「日本で暮らす日系ブラジル人の苦勞/Hardships of Japanese-Brazilians living in Japan」「日本人のブラジル移住の歴史～多文化共生を考えるきっかけに～/History of Japanese immigration to Brazil」「関西での日系ブラジル人の暮らし」という4件の動画がヒットした。同チャンネルの動画で特徴的なのは、ブラジル人移住をめぐる歴史的な地域性とブラジル人支援NPOとの連携である。

4.4.3 Discover Nikkei

同団体は、1人1人のライフストーリーを内容ごとに1分～2分程度に分けた動画を公開してい

る。チャンネルは、2008/01/10にチャンネルが登録から現在に至るまで登録者数は、3.87万人で、これまでに計1756本の動画が公開されている。同団体のHPによると、Discover Nikkeiプロジェクトは、日系人のアイデンティティ・歴史・体験をテーマに、多様なストーリー・体験の共有とつながりの構築の場となることを目的としたコミュニティウェブサイトとなっており、日本財団による助成のもと、全米日系博物館が主催した日系レガシープロジェクトとして、10か国・14団体から、100名以上の学者の協働によって実現したものだという。またこのdiscover nikkeiは、同サイトで「ブラジル」というワードで検索すると、出てくる動画も含めると、ブラジルにルーツをもつインタビューとして下記8名、(1)赤間みちへ(1世。ブラジル女性教育の先駆者)(2)児玉良一(笠戸丸移民)(3)パウロ・イサム・ヒラノ(群馬県大泉町在住の日系ブラジル人三世。デザイン事務所経営)(4)西村俊治(JACTOグループ創設者)(5)二木秀人(1世教育者)(6)木下正夫(負け組の主要メンバー)(7)二宮正人 サンパウロ大学法学部博士教授、弁護士、翻訳家(8)アントニオ・シンキチ・シコタ(9)セリア・アオイ(ブラジル日本移民史料館館長)のライフヒストリーインタビューが動画としてあげられていた。これらの動画の特徴的な点として下記2点があげられる。移住の歴史・教育・就労・アイデンティティという複数のテーマが設定されており、日本人の一世の移住の経緯、ブラジル移住後の就労や言語習得、2世の教育、第2次世界大戦中の就労や日系コミュニティ内部の負け組・勝ち組の対立、国籍とアイデンティティなどがテーマになっていることである。

4.4.5 大泉観光協会

同協会が運営するチャンネルは、2019年4月5日に登録されて以降、執筆現在までに登録者数が1180人となっており、これまでに185本の動画をあげている。同協会のチャンネルにアップロードされた動画は、すべて日本語が使用されている。これらの動画の中でも、日系ブラジル人をゲストスピーカーとした「世界がぎゅっとリアルトーク」は、各6分～10分程度で、4つの動画が日系ブラジル人についての内容でシリーズ化されていた動画であった。このシリーズの中で、最も再生回数が多かったのが、「日系ブラジル人が語る、過去の苦労点と日本国籍取得について」(1064回再生)であった。これらのシリーズ化された日系ブラジル人を被写体とした動画の特徴として、日本での教育を経て個人のデザイン事務所を立ちあげている日系ブラジル人の方や工場労働を経て日本でイベントの企画・運営をする会社を創業した男性のライフストーリーが描かれており、国籍やアイデンティティの話、就労やビジネスの観点からの多文化共生の視点を提供している。また、同協会のチャンネルでは、ブラジルのレストラン・スーパー・パン屋・衣料品店の紹介、ブラジルのお酒やケーキの作り方の紹介の動画、「活かな世界のグルメ横丁」といったイベントの紹介なども行っており、地域の多文化共生の視点や、地域のビジネスの観点からの動画などが公開されていた。

4.4.6 Alternativa online

同チャンネルで公開されている「O Outro Lado do Mundo・軌跡 ～在日ブラジル人の25年～」は、東京都の渋谷区に事業所を置き、ポルトガル語の雑誌「Alternativa」を発行する日伯友愛社が制作・公開したものである(MegaBrazil, 2015)。チャンネル自体は、2015年10月20日に登録がされており、執筆時時点(2023年12月27日現在)で、登録者数は2.82万人に上る。チャンネル内では主にポルトガル語を中心とした動画がアップロードされており、軽888本の動画がアップロードされている。中でも、同シリーズは、計11話まで制作されており、日本語訳・ポルトガル語訳の両者での視聴が可能となっている。取材・撮影を行ったホベルトマックスウェル氏自身も在日ブラジル人で、ブラジルで大学を卒業後・静岡大学で修士号を取得し、現在はフリーランスのジャーナリスト・映像・写真作家として活動しているという(MegaBrazil, 2015)。

シリーズの各動画は20分程度で、全11話の中で「デカセギ」「ストーリーテラー」「融合」「ボランティア」「新しい道」「犯罪」「信仰」「若者たち」「運命の地」「未来」というテーマごとに、ライフストーリーが展開されている。このシリーズ化された動画で特徴的にみられるのは下記の3点である。第1に、ロールモデルとして幅広い職業や活動を行っている日系ブラジル人の方のライフストーリーが取りあげられていることが特徴であるといえる。具体的には、ジャーナリスト兼大学教授・研究者・社会相談員・ユーチューバー・ラッパー・デザイナー・農家・非営利団体のスタッフ・ブラジル人学校の教師、記者、起業家、工場労働、工芸家といった人があげられる。また、週何日か工場や

アルバイトで労働をしながら、自分が希望する活動(被災地支援でのボランティア・演奏家・ダイバー)をするケースなどについても触れられている。第2に、描かれる対象の場が全国各地になっているということがあげられる。これは前述したように日本のメディアにおいては地方放送、特に集住地域の地方放送がその都道府県に言及して動画を作成している傾向が圧倒的に多かったことと対照的に、エスニックメディアといえるAlternativa online での表象には、全国の散在地域で暮らす日系ブラジル人の人々にも焦点が当てられていたこと特徴となっていた。

5. 考察

本稿では、youtube上で「日系ブラジル人」と検索した際に出てくる94件の動画を分析対象とし、動画を視聴後に動画の内容を要約するとともに、内容を示すコードを複数付与するとともに、動画内で言及される都道府県にコードを付与していった。そして、言及される都道府県の傾向、動画として表象される特徴的な内容、動画を提供している団体の特徴という3点に着目した。その結果、第1に日系ブラジル人の表象の特徴として、特定の地域に言及が集中する傾向があることが明らかになった。具体的には、動画内で言及される都道府県は、ブラジル人が集住している愛知県や静岡県といった集住地域が中心に取り上げられる傾向にあった。第2に、地方メディアの動画内で取り上げられる日系ブラジル人には特徴がみられた。具体的には、日本での教育を経由した第2世代が、第1世代でも日本人でもないという固有の立ち位置から次世代の学びを支える教育関連の職業を志向する「世代型媒介型」(児島 2016)と言われる職業に従事する第2世代へのライフストーリーが取り上げられる傾向がみられた。一方で、ブラジル人学校を取り上げる動画においては、ブラジル人学校を経由した進路実現というよりも、その経済的な困難さが強調される傾向にあった。

以上のような表象の特徴から、日本のメディアでは、日本の教育制度を経て、日本社会の中でメリトクラティックな価値観を内面化した第2世代の姿が強調されてしまい、第1世代の労働者として直面する課題や日本の教育制度とは異なる教育機関を経由して職業達成を果たしている日系ブラジル人のロールモデルについては見逃されてしまう可能性があることが指摘できる。

一方で、エスニックメディアに目を向けると、モデルやタレント、デザイナーといったクリエイティブな職業従事者も取り上げられており、いわゆる世代間媒介型や上述した住民媒介型以外の職以外にも焦点を当てている。また、日本の教育機関を経由した直線的な進路を描いたケースだけではなく、日本で工場労働者を経た後に起業したケースなども取り上げている。このように、エスニックメディアにおいては日本のメディアでは取り上げられない職業や、直線的な進路形成以外の職業達成のルートを提示する役割を果たしていた。また、こういった情報をポルトガル語と日本語の両言語で発信しており、日系ブラジル人の視聴者に対して多様なロールモデルの提供や、進路形成の在り方を提示するようなエンパワメントの意味が付与されているといえる。

しかしながら、在日ブラジル系メディアの場合、主要な週刊新聞2社が、2009年と2010年に廃刊になったことにより、言論空間の不在が危惧されている(イシ 2011)。エスニックメディアは、日本の行政の手の届かない情報の穴を埋める重要な役割を果たしてきたが、その経済基盤の脆弱性が課題となっており、行政による支援の必要性も指摘されている(白水 2011)。今回の分析においては、動画提供団体として、地方メディアの存在とともに、日系ブラジル人集住地域の自治体やNPOの存在があることが分かった。また、後者が作成する動画にエスニックグループの当事者が登場していたことも着目に値する。このように日本の多文化共生は、国の移民政策がない中で、地方自治体を行われてきたという歴史があるが、メディアにおいても地域のローカルな文脈から協働する形態のメディアがでてきたことは大変興味深く、今後の発展が期待される。

(注)

1本稿では、エスニックメディアの定義は、白水(2011)による定義を用いる。白水によるとエスニック・メディアは、「エスニック・マイノリティの人がその言語やエスニック・アイデンティティなどの必要から用いる、出版・放送・ウェブサイトなどの情報媒体であり、特に居住国内で編成・制作されたもの」と定義する。

参考文献

アンジェロ・イシ. 2011.「在日ブラジル人ディアスポラとメディア テレビとそのオーディエンスのトランスナショナルな戦略を中心に」マス・コミュニケーション研究(79)

ブラジル日報. 2022.「<<記者コラム>>日本の教科書に出始めた南米移民=今は地理中心、歴史はこれから？」<https://www.brasilnippou.com/2022/220308-column.html>
(2024年02月15日取得)

濱田国祐. 2013.「在日ブラジル人の「社会問題」化と排外意識」『レイシズムと外国人嫌悪』明石書店.

児島明(2016)「ブラジル系ニューカマー第2世代の職業志向 欠落/喪失の資源化に着目して」『地域学論集 鳥取大学地域学部紀要』13, 39-60.

森茂岳雄・中山京子 2011 「移民学習論—多文化共生の実践に向けて」日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶ノ水書房.

MEGA BRAZIL 2015「日本で暮らすブラジル人たちの素顔に迫る映像ドキュメンタリー・シリーズ「O Outro Lado do Mundo・軌跡 ~在日ブラジル人の25年~」公開」
https://megabrasil.jp/20151029_26186/ (2023年1月23日取得)

梶田孝道・丹野清人・樋口直人. 2009.「顔の見えない定住化 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク」名古屋大学出版社.

総務省. 2022.「令和2年国勢調査—人口等基本集計結果からみる我が国の外国人人口の状況」<https://www.stat.go.jp/info/today/pdf/180.pdf>

島田直季・中原久志(2023)「小学校社会科におけるICTを活用した見方・考え方の学習指導と評価」『日本科学教育学会研究報告』37. 45-48.
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00662.html

白水繁彦 2011「橋をかける人々——多文化共生メディアの挑戦」日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶ノ水書房.

坪谷美欧子編 2020.『人権と多文化共生の高校——外国につながる生徒たちと鶴見総合高校の実践——』明石書店.